

9月4日 新しい観測装置の導入手続きについて、議論(泉浦)

(まず用意した資料に沿って一通りの説明を行った。使った資料は集録として公開予定)

泉浦: 昨日の話(将来計画の議論)では早いもの勝ちという話が出てきたが、これからは早い者勝ちではなく大人の話し合いで決めて装置をのせていきましょう。スケジューリングなどはせいめい小委員会に判断してもらうが、そのもとになる材料をまとめて現場の岡山分室と京大天文台で形作って、それをせいめい小委員会へと提出する。それ以外の方法があればそれも提案してもらえれば。

松林: KOOLSとTriCCSのときは、科研費を出す前にざっくりこんな計画で科研費へと応募してよいですか？と一回目の提案をした。その後、せいめい望遠鏡にのせたあとに性能評価してせいめい小委員会に審査してもらった。初期のころはせいめい望遠鏡が出来上がる前段階で、のせたい装置の計画がある人はいつまでに応募してください、というような案内があった。

泉浦: 初期は手を挙げればほぼどの装置ものせられる状態だった。

松林: 今はまだ物はないけど、こういう装置をのせたいですという計画があれば、まずはせいめい小委員会で審査してください、という過程を入れるということか？

泉浦: はい。現在、並行して3つほど装置を作っている段階。今までと同じようなスペースの使い方ならあと2、3つくらいまで。

木野: ファイバー装置なら余裕はある。焦点面にのせるのはすでにもういっぱいいっぱい。

泉浦: これから立ち上がってくる装置が使うスペースを見ながら、あといくつ装置をのせられるかせいめい小委員会で検討する。

松林: 装置開発をやっている人は少なくて、せいめい小委員会で議論するのは難しいのではないか。場合によってはせいめい小委員会の下にさらにWGを一つ用意する？

泉浦: 必要だと判断されれば、せいめい小委員会の下になにかWGを作って、評価資料を出してくださいと要請していく。

松林: わかりました。

川端: 少し違うかもしれないが、すばるのPIタイプ装置とファシリティータイプの装置でしっかりわかれていて、PIタイプ装置からファシリティータイプの装置(観測所側が管理する装置)へと移行することがある。例えば今動いているKOOLS-IFUなどファシリティータイプの装置なのか。

泉浦: ほぼすべてファシリティー装置。

川端: 技術的なことは観測所の中で議論して、大規模に使う時にSAC、せいめい小委員会などに議論する流れか。

泉浦: 技術的なことがわかっている人に確認してもらえればよいが、難しいのはバッティングするときにどうやって解決するのか、それが難しいと思っている。

川端: せいめい小委員会のようなサイエンスを見ている側やコミュニティ全体を見ている人をうまく使えば議論できるのでは。

泉浦: すばる望遠鏡は装置の提案がたくさんある場合に、装置はのせられませんということや、期限限定とかの議論はあるか？装置の候補が上がってきてのせきれなかった時の議論は？

川端: すばる望遠鏡の場合は一定の基準をクリアすれば受け入れる。短期間の場合が多いが、期間が長くなったり、新たに提案される装置が増えて厳しくなっている。それについて今度のPI装置のワークショップで議論する予定。あと松林さんが言ったように最初のとりかかるところ、概念設計、科研費を応募するかという段階ではもう少しせいめいコミュニティに近いところで話したほうがよいかも。一年に一回は期間が長いかも。とりあえず科研費に申し込んで良いのか、観測所の人を加えて議論してクリアすれば良いかと。

泉浦: 期間としてはある科研費の締め切りが終わって次の科研費の締め切りが来る半年、1年の期間は受け付けますというのも良い。柔軟性があつた方がいい。

川端: 特大(※他の装置を外して載せ替えるような装置のこと)は1年に一回か？どのくらいバッティングするかにもよると思う。特になければその都度？

泉浦: 現在、MIDSSAR、MOFU²、お金がつけば赤外ファイバー分光器、赤外偏光撮像装置が短い期間で来るかもしれない。IMONYもある。

川端: 時間的にもサイズのにも違いがあるかと。技術実証のための持ち込みは？

泉浦: 技術実証のための持ち込み装置で一旦つけてまた外すというものについては、今まで通り自由にやってもよいと思う。今、問題なのは焦点面をずっと占有したい、焦点面の現状を変えたいなどの要望についてどう折り合いをつけていくか。

川端: ファシリティー装置的でないものについては1年ごとに審査するとか？

泉浦: いろんなアイデアとか工夫を考えると、いままでのいきさつからせいめい小委員会で決定してもらうのが良いのではないか。新しく委員会を立ち上げる労力をかける余裕はないだろう。

長谷部: IMONYの10月の試験観測で大きな問題がなければそのあとしばらく焦点面におきっぱなしにする予定。そうすると焦点面を占有する可能性があるが、一旦占有状態で構わないのか、せいめい小委員会で審査のプロセスを整えればそこに申請すればよいか、もしくはある程度時間が経ったら外す必要があるのか。

泉浦: これまでに倣うと、せいめい小委員会で公開可とされていない装置が焦点面を占有して使うことはきびしい。当面はすぐに外せる状態ならばつけることは構わないが、ずっと焦点面にのせようとするときせいめい小委員会に共同利用で公開可能という判定をもらわないといけない、という方針を提案している。まだ確定はしていない。

長谷部: その方針が決まれば、それに従って申請する？

泉浦: 方針についてはせいめい小委員会に決めてもらう、と考えている。

木野: 装置規模のカテゴライズをみるとIMONYは中になる。小型装置フレンジの半分ほどを使う規模なので、さっきの審査の区分だと共同利用運用委員会になるのでは？

泉浦: 搭載期間にもよるので共同利用運用委員会で判断するか微妙なところ。せいめい小委員会かどちらか。

磯貝: IMONYを載せてる側の要望は？一年後に外されると困るとかはあるか？

長谷部: 学生主体でやってるので、外せと言われると後輩が困る可能性が高い。

泉浦: 今の提案だと、一年更新になるはず。次の装置の提案がなければそのままのせていても良いが、もし後からきた装置の優先度が高いと判断されれば、外してもらわないといけない。そういった細かいことまで考えて議論しないといけないのでせいめい小委員会は大変になる。

長谷部: もし承認が下りなくて、時期によってはIMONYで観測するつもりで提案を出してしまっている場合がある。それで学位論文を書こうと思っていたのに...ということが起こる可能性がある。

泉浦: 学位論文がかかってくると、優先度は高いので協力的にはなってくれるかと思う。

木野: 審査の時期のフローについて、その装置がついていないと意味がないプロポーザルを出そうとしたときに、実際にどこに装置がつけれることが担保される？一時的であれば共同利用でもつけられる？

泉浦: 共同利用で持ち込み装置の受け入れを可能にすればできる。

木野: 常設できるかはわからないが、取り付ける前提でプロポーザルを出すことは可能なのか。

泉浦: はい。ただし、共同利用での持ち込み装置の受け入れはまだ行っていない。

田實: これから持ち込み装置についてopenにするかどうかはせいめい小委員会で議論が必要になる。審査の複雑さは増す。可能性は0ではない、としか答えられない。ただ科研費を出す前の初期の提案の部分はせいめい小委員会に出しても恐らく困る。特大装置はそうでもないかもしれない。現場でまず議論したほうがよいのでは？そこで決着がつかなかったらせいめい小委員会に相談する、という流れになるのでは。IMONYについては、他に焦点面にのせたいという希望はいまのところ具体的にほぼないので、それまでのせておくことについては観測所側は現在には問題ない。

泉浦: いま持ち込み装置を可にすると、他に持ち込み装置の提案が出てくる可能性はある。そうするとIMONYとバッティングするかと思う。

田實: せいめい小委員会での判断はあくまで共同利用に出すかどうかになる。

泉浦: 科学的意義や全体のスケジュールに対してはまるかどうか、という複合的な判断はしている。

田實: 今、すでに物がある場合、ちゃんとはずすなら京大時間に持ち込みは別に問題ない。

泉浦: まとめると受付期間は広く、長くする。情報を把握しながらすぐにのせたいか、しばらくかかるかというのを含めて判断する。

木野:確認ですけど今から(この体制は)走る?対象となるのは第一期に認められた装置以外のMIDSSARや佐藤さんの超高分散、一旦取り下げた近赤外偏光撮像カメラも全部新たに審査する?

泉浦:公平性の観点からはそうなると思う。

木野:MOFU^2のようにreplaceするものも再審査?

泉浦:一旦スペースが空くので、仕切りなおして審査するというのが良い。

田實:装置計画を持っている人が集まってワークショップをやる?どのくらいのバッティングがあるのか、今わかるものだけでも出しておく必要があると思う。

泉浦:せいめい小委員会の負担も減る。

木野:デコミッションもあるが、第一期に承認された装置でまだできていない装置についてはどうするのか。

泉浦:新しい計画も出てきてるので、それらも含めて整理して見直す時期にきた。装置計画ワークショップはやったほうがいい。

田實:対面でやったほうがいい。

泉浦:来年のせいめいユーザーズミーティング前にはやりたい。